

みてみて

発行／
播磨町社会福祉協議会
ボランティアセンター
〒675-0147
播磨町南大中1-8-41
☎079-435-1712
H29.3.24発行

播磨町ボランティアセンターがお手伝いいたします

～ボランティア活動に参加したい人と、ボランティアの支援を求める人の橋渡しをしています～

- ★ボランティア活動をやってみたい人や、ボランティアの協力を必要とする人のご相談を受けとめます。
- ★ボランティアに関する情報を広報誌やホームページ等でおとどけします。
- ★ボランティア活動にお役立ていただく講演会や講座などを開き、学習の機会をつくります。
- ★ボランティア活動希望者と、協力者を必要としている人が出会う場をサポートします。

つなげる

お知らせ
する

受けとめる

ささえる

講座開催 (photo 要約筆記啓発講座)

団体活動支援 (photo ボランティア連絡会)

つくる

体験活動 (photo 福祉フェア)

学習機会の支援 (photo 播磨南高校)

ボランティア保険 申込み受付中です！

～29年度 活動分受付が始まっています～<兵庫県ボランティア・市民活動災害共済のご案内>
加入されたボランティア活動者の万が一の事故に備えていただくためのものです。
◆補償期間◆平成29年4月1日から平成30年3月31日まで くわしくは下記まで♪

【お問い合わせ】播磨町ボランティアセンター（播磨町社会福祉協議会）
TEL：079-435-1712

「心の声に耳を傾けたい」

～ボランティアのつどい2017 石田裕之さん～

ボランティアの集い ～つどう・つながる・みんなの輪～

災害が起きた時にできること

- ・まず命、自助と共助で
- ・避難所の自治で関連死を減らす
- ・「受援力」を復興の助けに

ボランティアのつどい2017（平成29年1月28日 ボランティア活動者や、ボランティアに関心を寄せる皆さんを対象に開催）に、シンガーソングライターの石田裕之さんをお招きした。当日は「災害が起きる前にできること、起きた時にできること」をテーマに、災害にまつわる自身の体験を交えたお話しを伺った。

中学の時に阪神淡路大震災を経験し、「いつか恩返しをしたい」と思ったという石田さん。東日本大震災や熊本地震の被災地へ繰り返し足を運んでいる。

東北での災害について、発災から2か月ほど経ったある日、ボランティアバスに乗り宮城県石巻市や女川町へ行った際、一ボランティアとして、「自己完結」が何より大切であることを学び、身の回りの必要なものは自ら持参することやゴミの始末など、当たり前だと言われるようなことも、決して怠ることのないように心がけているとの事。

石田さんが、今でも活動の「道しるべ」として大事にしているエピソードを語ってくれた。

避難所に赴いた際、ギター演奏の要望を受け、唄うことになったんです。引き受けたものの、辛い思いを抱える皆さんに、どんな曲を歌っているのかわからなくなり、そこに集まった皆さんからリクエストを受けることになりました。同時に、一緒に歌ってほしいとお願いしたら、みんな楽しそうに歌ってくれました。最後に、ご高齢の女性が「避難所へ来て、こんなに歌わせてくれたのはあなたが初めて」と言ってくれたんです。数百人がひしめきあって生活をしている状態で、大きな声で泣いたり叫んだりすることができなかったそうです。

この時から「人の心の声に耳を傾けよう」と心に決め、「自分が思う何かをしてあげようではなく、何が求められているかに寄り添いたい」と言葉を添えた。

災害時、被災者ひとりひとりが「主役」となるため、主体的に助け合う意識が求められる。いざという時に問われるのは、つながりのある「地域の力」、また、災害への備えは「将来悲しむ人の数を減らせる。」と力強く語り、最後に、「被災地の物品を買うことも十分支援になりうる。現地に行けなくても、関心を寄せ続けることが大事だと思う」と締めくくった。

「備え」と「被災地支援」の両面からお話しいただき、災害について思いを馳せる時間を持つことができました。いつか起こりうる「いざという時」に備え、ボランティア活動を通じた地域づくりを、住民の皆さんと一緒に今後も考えていきたいと思います。



「あたたかく見守って」
 ～山本さんからのメッセージ～
 ボランティアセンターでは、福祉に「触れる」
 「考える」「体感」する機会として体験学習をお手
 伝いしています。今年度、播磨南高校や播磨南小
 学校において山本 須美子さん(播磨町在住)から
 お話しいただきました。
 播磨南小学校3年生に向けてのお話の様子
 を紹介します。

山本さんは、生まれつき弱視でしたが、それから徐々に視力の低下が進み、現在では両目いずれも全く見えない状態です。

平成29年2月、この日は、ガイドヘルプの体験学習に加えて、盲導犬と共に暮らした時のお話や外出時の様子など、丁寧にご説明いただきました。以前は盲導犬の貸与を受けていた時期もあり、外出を共にしていたこともあったそうですが、病気のため盲導犬として引退した後、数年間は一緒に暮らしていましたが天国へと旅立ち、とても悲しい経験だったとお話してくださいました。それからは、ガイドヘルパーさんと一緒に買い物に行ったり、白杖を使って一人で映画を観に行ったりすることもあるそうです。そんな、とても行動的な山本さんから子どもたちへ、こんなメッセージがありました。

白杖を持って一人で歩いている人や、盲導犬を連れている人を見かけたら気にかけてほしいし、「何かお困りではないですか？」などと声をかけてほしい。でも、時には「大丈夫ですよ。」と断られるかもしれないです。時と場合によっては自分でできることもあるからです。しかし、点字や点字ブロックがあっても、盲導犬がいても、特に初めて訪れる場所では助けてもらいたいこともあるのです。ぜひ勇気を出して声をかけてもらえると、「見守ってもらえているんだ」と感じて安心できますし、とても嬉しいのです。



ペアになり、アイマスクを付け視覚障害の体験者と、ガイドヘルプ(手引き)をする役に分かれ、校内を歩きました。

はくしょう
 白杖は障害物がないか確認するだけでなく、目が見えない、見えにくいことを周りの人に知らせる役目もあります。

「高齢者の居場所を地域につくる」 はじまりはそんな思いからでした。～笑い声が聞こえる木のおうち～

「なでしこの家」

西野添にあるログハウスに付けられた名前。ボランティアグループ「なでしこの会」(以下、会)がこの「家」でサロン活動を展開しており、月に数回、にぎやかな話し声が聞こえてくる。食事や手芸のほか、学校ながら理科や国語の授業など、会のメンバーの自由な発想からユニークな内容が繰り広げられる。そんな取り組みについてご紹介する。



～ある日のなでしこの家～
 理科の実験中にお写真パシャリ。白衣を着た「なでしこの会」メンバーが「さて、どうなるでしょう～?」と問いかけながらいざ実験、そして解説。参加者から「へえー」と声が挙がる。その後の食事中、参加者の一人は「ここに来たら話ができて楽しいわ」と笑顔でおっしゃった。

「なでしこの家」集いの場はこの2つ

■ほんわかサロン (高齢者対象)

とき：月3回—①第1水曜、②第2水曜、③第3水曜
 時間：10時～14時頃 各昼食付

①は全員が対象、②と③はお住まいによって対象が分かれているため、お一人あたり月に2回参加できる。高齢者の外出の機会づくりと、おしゃべりができる居場所づくりを目的とし、多いときで「家」の中は25人にもなり活気に包まれる。

■なでしこ子育てサロン (就園前までのお子さんと保護者対象)

とき：月2回—第1、第3月曜 ※月によって変更有り
 時間：10時～12時頃

お母さん同士がおしゃべりをし、気分転換ができることを目指している。お茶を飲みながらゆっくりと過ごしており、時には会のメンバーが手遊びや読み聞かせなどを行う。

ばなし ちょこっと話 ～この活動に関わっている方から届きました～

「ボランティアを続けて」 なでしこの会 (大内 百合子さん)

平成4年、以前住んでいた西宮から、私の故郷である播磨町へ移ってきてから25年が経ちました。その間、色々なことがありました。転居して1年後、重度の障害児であった次男が13歳で亡くなるという悲しい出来事や、その後、あの阪神淡路大震災があり、西宮にいたらと思うと胸が痛くなり、同時にたくさんの友人が困っている中で、何もできない歯がゆさを感じました。その後、被災地へ衣類を運んだり、炊き出しのボランティア活動をしました。この経験と、当時の養護学校へ通っていた次男がお世話になった恩返しをしたいとの思いから、ボランティアを続けていこうと決意し、高齢者サロンと子育てサロンを行っているなでしこの会に入りました。

自分にできることはなにかを考え地域の人に役立てたらと、高齢者が自由に参加できるサロンの活動を続けています。時には利用者さんに教えられ、支えられて、ともに笑顔いっぱい参加できることが私のいきがいとなっています。小さなことでも、何か手助けできることはないかと考えるのが大切だと思います。そして、「継続は力なり」です。